

【注目裁判】

ロボット野球部員、晴れて公式大会出場へ

一昨日、東京の裁判所で行われたロボット野球部員・柴沢ロビンさんのクラブ活動をめぐる民事訴訟で画期的な判断が示された。これにより、柴沢さんは、早ければ春の大会から選手として出場可能となる見込み。

柴沢さんは、柴沢工業高校の機械科工作室で誕生した学習型人工知能アンドロイドで身長167cm・体重62kg。10時間の充電で2日間の運動ができる。また、接触プレーで相手選手を傷つけないよう柔らかい合成樹脂製の多重皮膚構造をもち、安全性にも問題はない。

彼は、二年前に柴沢工業高校の野球部に入部。以来、甲子園出場を夢みてコツコツと練習に励んできた。当初は野球経験がまったくなかったのが戸惑うことも多かったが、現在ではルールブックも完璧に記憶していて球友たちの信頼も厚いという。

しかしながら、これまでは公式大会への参加は認められず、練習試合でも相手チームの了解がなかなか得られないため、実際のゲームに出場する機会はほとんどなかった。

さらに、柴沢工業高校は少子化対策のため来年度限りでの整理対象校となっている。そのため、野球部員は柴沢くんを含めて9名しかおらず、公式大会出場ギリギリの厳しい現状にあった。

柴沢ロビンくんのコメント

『生みの親の天牛博士と育ての親である紅茶水博士に「ありがとう」と言います。また、尊敬するアトム先輩やネコ型ロボットのドラちゃんにも野球部全員で報告に行きたいです。』

法野正義裁判長

『柴沢くんの運動能力は、普通の高校生と比べて特に優れていると認められないので他の選手が不利になることはありません。また、柴沢工業高校の個別事情なども慎重に考慮し、このような判決になりました。』

今回のうれしい知らせに柴沢工業高校の野球部員たちは、ほっとした表情で喜びをかみしめている。 (文責・手塚)